平成30年度 第2回恵庭市水と緑のまちづくり審議会（議事要旨）

日 時：平成30年8月1日（水）10：00～11：00
場 所：市民会館（2階） 視聴覚室

出席者： 【委員】（8名）

池永 允子・大塚 武・岡本 浩一・斉藤 浩二・下原 干城・豊田 栄
三浦 真吾・山口 裕美

【市】（8名）

（市長）原田 裕・（企画振興部長）浅香 正人・（企画振興部次長）大槻 雄二
（管理課主幹）萩原 由紀夫・（管理課主査）小川 貴弘
（経済部次長）渡辺 成人・（商工労働課主幹）藤井 昌人
（商工労働課主査）桑原 一徳

【事務局】（3名）

（まちづくり推進課長）岡田 貴裕・（まちづくり推進課主査）遠藤 美樹
（まちづくり推進課主任）吉田 智哉

【傍聴者】（0名）

欠席者： 【委員】（4名）

内倉 真裕美・内田 信一・薬袋 真也・吉田 愛子

恵庭市水と緑のまちづくり審議会（第16期）会長に下原委員・副会長に斉藤委員が選出された。
議事に関する意見の概要は以下のとおり。

議事1. 地域未来投資促進法施行に伴う規制の特例措置等による工場立地法の緑地面積率の緩和について（報告）

（経済部商工労働課より「地域未来投資促進法施行に伴う規制の特例措置等による工場立地法の緑地面積率の緩和についての考え方(案)」について報告。）

（A委員）

事前に資料をいただいてよく読んでいたこともあり、今日の説明で十分理解できた。

（B委員）

こういうことなんだなと受け入れるしかないのかなと感じた。

（C委員）

以前より良くなっている。目次立ても「2 現状と課題」がしっかりと現状と課題になっている。

細かいところだが13p.と15p.の工場立地法による事項について、「敷地周辺部への緑地等を15%配置」とされているが、正確には「15%以上」とすべき。

また9p.の「2-4-2 企業からの反応」に敷地内増設を検討している企業が1件との数字が掲載されているが、1件との数字は不要ではないかなと感じた。同じ1件でも「2-4-3 市民の反応」の数字とは意味合いが違う。

例えば敷地面積が特定工場としての最低限の9,000㎡の工場で、15%にあたる緑地等を敷地の外周に回した場合「敷地周辺部」は敷地境界線から何m確保されるのか？

(商工労働課)

指摘のあった「15%以上」の文言については修正する。「敷地周辺部」については敷地面積が9,000㎡で1周すべてに15%の緑地等をまわすと敷地の境界線から幅約2.5mとなる。

(D委員)

16p.の5.恵庭市の緑化や緑地の配置(4)緑の体積や視覚的な緑量を向上させる緑化の推進について、厚みのある緑地を確保していくとのことだが、平面的に緑地が減るとボリューム感は減るが、立体的・立面的な緑により「緑視率」つまり人の目に入る範囲での緑の量を向上させることで、面積が少なくとも満足度は向上する。企業にも是非話してほしい。平面的な部分からすると、建築物壁面やコンクリート塀等を緑化と記載されているが、駐車場の芝生化、緑化も効果があるため、それも含めてアドバイスするといいのではないか。

(商工労働課)

立体的な緑化ということについては我々も考えているが、工場立地法の緑地面積率の緩和についての考え方において指定は特にならない。企業も専門家をつけて配置を考えてくるので、専門家の知識もいただきながら一緒に考えていきたい。

(E委員)

恵庭市ならではのガイドラインができ、すばらしいこと。

スケジュールでは公布日までしか記載がないが、公布日以降に既存の企業へは周知されると思うが新規に市内に誘致する企業へのPRもしていったらいい。

(商工労働課)

緑地面積率の緩和について、引き合い等のなかで、企業誘致のPRポイントとしていく。既存企業に対しても増設の相談に対しガイドラインを見せながら指導していく。

(F委員)

ガーデンシティ恵庭で緑を減らしてOKとすることは異例だと思うが、自分も工業団地で会社を営んでいるため、緑の確保の大変さはわかる。周囲には、月に2、3日芝刈機で草を刈っているところもあり、そこに1人工とられると思う。恵庭だからといって緑を増やさなければいけないということではないと思えることで気が楽になった。売れる商品ができればどうしても工場の増設が必要となるが、臨機応変に法にのっとって対応し、増設ができないことで恵庭市から出て行かなくてはならないという状況にならないようにしてほしい。

(副会長)

最初の資料よりもしっかりしており、大事なところが踏まえられていることを評価したい。工場立地法の緩和に対して恵庭市としてどうなのかというガイドラインを作成してほしいという話のなかで、「恵庭市の独自事項」と、はっきり恵庭市の意思が感じられる言い方で、非常に良い。ガイドラインがないからといって変なことをする企業はいないとは思いますが、先んじて市の姿勢が出せている。

ただし、恵庭市と委員のやり取りを見ていて感じたこととして、緑の量はがんばっているが質については、進出企業も専門的な見地から提案があるということは確かにあるが、それに対しても市がやりとりできるような知識を持ってほしい。

また、条例改正の内容や実際に工場立地法の緩和に対してどのような申し出があったかということについて、審議会や広く市民の方に報告してほしい。増設以降どうなったかということについても、きめ細かな情報公開をしてほしい。

(会長)

それでは審議会としては、事務局案のとおり報告することとしたいが、良いか？

※委員より異議なし

議事 2. その他

(事務局)

次回の審議会は11月を予定しています。細かい日程は後日連絡いたします。
管理課より、前回の審議会で報告した街路樹維持管理についての修正・補足があります。

(建設部管理課より街路樹維持管理について修正・補足を配布資料に基づき行った。)

(D委員)

運用にあたって「事業の節目となる時期ごとに検証を行い必要に応じて見直しを行う」とあるが、これから実際に9・10月は台風が来るので樹種等によっては早めの処理・剪定作業など行われることも考えられる。指針に書かれたことについては、剪定方法等を含め毎年効果をチェックして修正をかけ市民との合意の中で進んでいけるよう、また3年後、さらに見直していくというように管理の質を高めていくために毎年チェックをしてほしい。

(管理課)

市民に対しては広報等で周知する。技術的には指針に基づいて運用していくが、運用内容について毎年、例えば街路樹を伐ったなどということがあればその部分を整理し、実績内容を検証し、毎年度末に水と緑のまちづくり審議会で報告したい。

(副会長)

指針の20p.の実行計画に技術マニュアルは2018年度に作成とされているが、次回11月の審議会で素案を提出する予定か？

(管理課)

2月の審議会でと考えていた。

(副会長)

2月に提示してここで意見を言って、それをまとめて来年度から運用するのであれば時間が足りない。本当に素案でよいので、次回の審議会で提出していただきたい。

(管理課)

次回審議会でなんとか素案を提示したいと思う。

(会議終了)